



【祝福される幸いな家庭への十戒⑩】

説教者：鄭南哲牧師

(すべての上に神の愛を実践する家庭)

(Rev. Jung nam-chul)

聖書本文(新改訳2017版):出エジプト記20章17節・ローマ人への手紙13章8-10節

中東地方でつたわっている一つの物語をみなさんにご紹介しながら今日のメッセージに始めたいと思います。

服や靴を集めることにもっと良い服と、もっとよい靴や履物(はきもの)を集める欲望をおさまらず、止まれなくて苦しんでいたあるペルシアのある王妃がいました。彼女はうわさをたよりに探し、その国の中で一番賢い賢者(けんじゃ)と呼ばれたある先生にこう尋ねました。“どうすれば、もっと良い服、もっと良い靴をほしがめる自分の貪欲を治めることができるのでしょうか。”、その先生は“もう何物も願わず、自分の現在の生活に自足している一人を探し、その人の服と靴を一日だけ着用して見てください。”と提案しました。

それで、王妃は臣下(しんか)たちを全国に遣わして、熱心にそのような人を探すようにと命じましたが、なかなかそのような人は見つかりませんでした。しかし、王妃はあきらめずに続けて必死に探せ！と厳命(げんめい)しました。ついにそのような人を国境線(こっきょうせん)のあたりに、ある山で暮らしている人を見つけたという報告がはいって来ました。

ところが、報告した臣下があわてながら言います。

“ところが、王妃様！しかし、一つ問題があります。”、“何の問題だ！”と聞いたら、“王妃様！実はそのような人を確かに見つけましたが、その人は何の服も着てないし、靴なんか履物(はきもの)も何も入ってませんでした。”との話でした。

結局、人は物への欲望や、貪欲から離れ自由になるのがなかなか難しく出来ないという話ではないでしょうか。

<① 人の心の動機&状態を見つめておられる神様-抑え切れないむさぼる貪欲の心を警戒し、自制の力を保つ事！>

神様の10戒の最後の戒めでは、「あなたの隣人の家を欲(ほっ)してはならない。あなたの隣人の妻、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを欲してはならない。(出20:17)」と命じられています。この戒めを一言で言いますと、「貪心貪欲(むさぼってほしがめることに飽くことを知らない)」についての警戒する御言葉だと言えます。

いつか10十戒の中8番目の戒めであった「盗んではならない。」という戒めもあるのに、どうして神様はまた強いて最後の10番目にも似たように他の人のものを欲しがってはならないという戒めを入れてくださったのでしょうか。ある意味では他の人のものを盗んではならないことと、他の人のものをほしがめることとは、結構重(かさ)なっているように見られますが、それには大きな違さがあります。

つまり、盗むということは人の行為、行動と直接関連がある反面、他の人のものを欲しがめることは人の内側の深くに隠されている心と思ひ、態度ともっと関係があります。

みなさんもよくご存知のように、盗むことは貪欲の為、他の人のものを何の許可もなく取ることでしよう。

しかし、貪心貪欲というものは、他の人や物に執着し、むさぼって飽くことを知らない心の状態、自分がコントロールできないほど、むやみにほしがっている人の欲望と関係があります。結局、自分の欲望を満たす為、結局、他の人のことを気にせず、納得できない行為をとってしまうのです。

神様はこの最後の戒めを通して、我々の心の中を注目され、人の心に介入して下さっています。

自分と家庭共同体への責任は単なる表にあらわれる行動に限られていません。不正に、むやみにむさぼって欲しがめることは目に見える行動よりも、我々の心の動機(どうき)、考えに焦点を合わせています。

サムエル記第一16章7節 「人はうわべを見るが、主は心を見る。」とされています。

確かに人は目に見える行いを大切にします。しかし、神様はそれより人の心の動機、考えをもっと大切に見ておられます。よく考えれば分かるように、結局、人の心と考えが行動の動機を誘発(ゆうはつ)させ、どんな方法であってもついにはその心の思った通りに行ってしまうのではないのでしょうか。そのため、聖書では絶えず、800回以上心について語って下さいながら、神は心を大切に見つめておられ、神の戒めを守り従うすべての者に、心から神を愛し、信じ、従うこと時こそ、必ず

豊かに祝福される人生、家庭となられるのを約束されています。

「何を見張るよりも、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれから湧く。」(箴言4章23節)。なぜでしょうか。

ヤコブの手紙1章15節「欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。」

代表的に、イエス様の12弟子の中一人だった「イスカリオテ・ユダ」を思い出して見てください。彼が結局イエス様の持つておられた人を動かす力、みんなから尊ばれる存在と価値を欲しがると抑えきれなかったお金への執着と欲望が結局一番大切だったイエス様との関係を破らせ、イエス様を裏切り、今までの人生を失敗へと陥らせてしまいました！

ヨハネの福音書13章2節「夕食の間のこと、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていたが。」と指摘して下さっています。コリント人への手紙第一7章5節「あなたがたの自制力の無さに乗(じょう)じてサタンがあなたがたを誘惑しないようにするためです。」、箴言25章28節「自分の心を制することができない人は、城壁のない、打ちやぶられた町。」だと書かれています。

サタンは絶えず我々を惑わし、我らの心にこのような思いを与えています。

‘あの人が持っているものを、私も手に入れたら、今よりかならず幸せになるはずなのに！’

‘あの人が持っているものを、私が所有すれば、私はもっと成功できるのに！’

‘あ、あれを手にいれないと、もう生きがいがないもの！’、

‘おれは少なくともあの人がもっていることより、私はもっと良いものを持ちたい！’

‘あ、あの家族ってうらやましいな。うちより全然幸せそう！’

‘ええ、どうしてあの家の人はあそこまで出来るのに、うちの家の人(夫、妻、子供、親)ってこの程度しかできんか’など。

このような思いや心のメッセージなどは自分にあるもの、持っていることに対してはその価値や大切さを自己卑下させ、決して自足も、満足も、感謝もできなくなるようにさせてしまいます。そして絶えず、自分と他の人のことを比較しながら、自分と周りの人々を苦しめます。そして、まるで自分が幸せになれるのは、他の人が持っている者や、状況、条件にかかっているかのように思い込んでいます。

まるで、幸せそうに見える他の人がもっているあのものを自分の手に入れたら、絶対すべてを解決してくれるカギ(幸せ、成功)かのように考え込んでしまいます。まるで、あの家庭のものがいないから、自分が今幸せじゃないかのように、生きる意味なんかのないような勘違いをしてしまいます。それで結局人は、自分の欲しがるものを手にするまで、自己満足も、周りの感謝も何も見えなくなります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今の時代は誰が死ぬ時まで一番多く所有するのが、その人がまるで人生の真の勝利者のようにけしかけているように必死に競争しているように見えませんか。そのため多くの人々が自分に対して自分がどんな存在なのか、何のために生きているのか、本来の自分の立場と役割は何だったのか、今の我が家庭がどれほど神の恵みであり、祝福であるかを忘れてしまうようになっていませんか。自分に与えられていることより、いつも自分に欠けていること、足りないことばかり絶えず見つめてしまって不平、恨みに覆われてしまっている時代、家庭の姿となっているように感じられませんか。

貪欲の核心部にはみなさんにあるものの問題より、明確な、肯定的な自我意識の欠如という問題があるとアメリカのゼイ・マシヤルという教授が指摘したことに我々は考えて見る必要があると思います。つまり、自分に対して自信がない、かならずよくなるという自信がない、自分はできないかも知れないけど、神様がかならず助けて下さる、必ず乗り越えられる！という信仰への確信がない、失敗しても一度挑み、戦ってみる！という信仰の勇気が今日の多くの人々は自分に失っている為、結局、根本的なものじゃない、他の人や物によって代理満足しようとする傾向があるとマシヤル教授は指摘する内容なのです。

ルカの福音書12章13節－15節で、イエス様はある愚かな金持ちの人と対面した時に、貪欲の例を明らかに教えて下さっています。主の御言葉を聞こうとして集まっていた群衆の中で一人がイエス様に自分の兄貴に話して家族の遺産を分け

てくれるようにとお願いしました。その時、イエスは「いったいだれが、わたしをあなたがたの裁判官や調停人(ちょうていにん)に任命したのか。」と答えながら、群衆に向かってこのように言われました。

「15どんな貪欲にも気をつけ、警戒しなさい。人があり余るほど持っても、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」だと教えながら、お金の執着して貪欲に満たされている人の心を見通し指摘して下さいました。

絶え切れない人の貪心貪欲は人類の歴史上、長らく、多くの人々を破滅に走らせ、罪にさらに陥らせるものでした。

コロサイ人への手紙3章5節では「淫(みだら)な行い、情欲、悪い欲、そして貪欲(むさぼり)は(そのまま)偶像崇拜です。」と神の御言葉なる聖書は我らに教えてくださっています。

愛する信仰の家族のみなさん！神様が十戒の最後の戒めにむさぼりを警戒するように戒めたのは、神様と人との関係、家庭の関係を保って行くために、一番重要だったからではなのではないでしょうか。私はかえてこの10番目の戒めこそ、すべての戒めの根本になるからだったと思われます。

みなさん、冷静に考えて見て下さい。貪(むさぼ)る心にとらわれている人がどうやって神様のみを正しく信じ、真心から礼拝を捧げられるでしょうか。姦淫は自分の妻、夫より、隣人を自分の妻を、夫をものにしようとしてむさぼってむやみに欲しがった行いの罪の結果ではないでしょうか。隣人のものを盗みも、偽り、欺くことも、結局人の抑えきれなかったこの貪る心から始まりであり、すべての不法の原因や通路になるわけです。

<心の貪欲を抑えられる自制の力を強化させる道：神を愛し続け、御言葉を愛しとどまり続ける事>

そしたら、どうすれば、我らの心にあらゆる種類の絶え切れない欲望から自分の心を守ることが出来るでしょうか。

自制が必要です！自分の心の欲望を抑え、コントロールが出来る自制力はどう手に入れることが出来るでしょうか。

* 自制(Self-control)とはギリシャ語で、「エンクラティア(Angklratia)」、つまり、選手たちなどが勝利のため訓練(繰り返し続ける)を通してあらゆる種類の自分の欲望を制することを意味します。我らには、そのような自制力が弱い、足りなさをどうさらに強くしていくことが出来るでしょうか。

* それは、何よりも、神様との関係をしっかり保ち続け、神を愛し続け、神の御言葉にとどまり続けることによって、聖霊の神様が我らの内側と行いに、実として、結ばせて下さることを約束して下さっています！ みんなご存じの、ガラテヤ人への手紙5章22-23節をご一緒に読んで見ましょうか。「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを反対する律法はありません。」

箴言3章5節には、「心を尽くして主に拠(よ)り頼(た)のめ。自分の悟りに頼るな。」

申命記11章13節-16節に、こう書かれ約束されています。

「もしわたしが今日あなたがたに命じる命令、すなわち、あなたがたの神、主を愛し、心を尽くし、いのちを尽くして仕えようという命令に、あなたがたが確かに聞き従うなら、14わたしは時にかなって、あなたがたの地に雨、初めの雨とのちの雨をもたらず。あなたは穀物と新しいぶどう酒と油を集めることができる。15また、わたしはあなたの家畜のため野に草を与える。あなたは食べて満ち足りる。16気をつけなさい。あなたがたの心が惑わされ横道に外れて、ほかの神々に仕え、それを拝むことのないように。」

ですから、今日、私たちも常に神様との関係により、われらの心が守られるか、絶えず揺らいでしまうのかがかかっています。みなさんが心尽くし神を愛し続け、神の真理の御言葉を愛し続け、とどまっているなら、我は絶えず、自分の心を深く探ることが出来るでしょう。聖霊の神の見極め、弁(わきま)える力と自制の力を保って、ご自身の心を守り、様々なむさぼりや貪欲を警戒して歩むことが出来ると信じます。

<②貪欲から克服できる道：満ち足りる信仰と心を保つ事！>

また、人の心の中絶え続くこの貪る貪欲の欲の心を克服することが出来るでしょうか。

使徒パウロは、テモテ人への手紙第一6章6節で、「しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を得る道です。」と教えて下っています。我らが絶えず心に生じる貪欲を克服するためには、今自分に与えられているすべてのことに満ち足

りる心(自足し感謝心)をちゃんと握るようにすすめられています。そして、引き続き次の7-10節の御言葉も私たちは覚える必要があります。

「私たちは何もこの世に持って来なかったし、また何かを持って出ることもできません。(7節)」それを神の御前で覚える時に、我々はどのようになりますか。次の8節に「衣食(いしょく)があれば、それで満足すべきです。」だと教えてくださっています。9節-10節もぜひ覚えて置きましょう。

「9金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に沈(しず)める、愚かで有害(ゆうがい)な多くの欲望に陥(おちい)ります。10金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金銭を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛を持って自分を刺し貫きました。」

アメリカのシカゴにあるムディ神学校の校長だったジョージ・スウィティング博士は一生この話を強調しました。

「我々が人生の最後の瞬間を向かえた時に神様の御前で一番大切なのは、一生いくらのお金を集めもうけたのかではなく、いくら神の愛を人に与えたのか、どれだけ分け与えたのです。」

私たちがこの世に生まれた時、何も持って来ませんでした。そして、この世と離別し、主の御前に立つ時は、生きている人生の道のりの中社会的な身分、経済的な状況、どれほど所有して集めて来たのかとまったく関係ありません。いやむしろ、神から与えられた家庭、家、家族、時間、健康、金、力でどれほど、神が喜ばれるために、神の御名が崇められるように、神の愛で分かち与え、仕えて来たのか主から必ず問われる時が来るでしょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！神様が見ておられるまま、自分自身に、家族に、牧場の家族に対し、感謝しているでしょうか。満足しているでしょうか。イエス様のように、使徒パウロのように、満足できる時、感謝のあふれる幸せな家庭、人生に変わると約束して下さい。感謝し自足する信仰と心のうちに、全ての物事がしばらくうまく行かなくても、しばらく必要な物が足りなくても、あらゆる場合に必ず益として下さり、我らを強くして下さい。神を信じ切って、頼りきる時に、自足することができると教えて下っています。

ピリピ人への手紙4章11-13節の御言葉が我々の証と告白となりますようにお祈り申し上げます。

「乏しいからこういうのではありません。私は、どんな境遇(きょうぐう)にあっても満足(満ち足りる)することを学びました。12私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることに飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇(きょうぐう)に対処する秘訣を心得ています。13私を強くして下さる方によって、私はどんなことでもできるのです。」(幸せだから、全て満ち足りているから、神を信じ、感謝できるのではありません！大変な時、必要な物が足りないどんな時にも、神が必ず自分と共におられことを信じ、今のすべての神の恵みに感謝し、自足すれば、必ず、さらに恵まれる人生、祝福され幸せな人生となれる聖書の御約束を一生忘れないようにしましょう！)

＜③(まとめ)我々は果たして神様の全ての戒めを完全に守れるでしょうか。(すべての上に神の愛を！)＞

今日まで10週間にわたって神様の戒めである十戒について共に学んで来ました！

十戒といえば律法の一部です。律法は十戒をふくめて613の戒めを持っています。これほど膨大(ぼうだい)で細かい戒めの内容を聞いた時、さっそくこの質問をせざるを得ません。この神の戒めを私が完全に守ることがはたしてできるのか！です。それに、神様は使徒パウロにより、ローマ人への手紙を通してすばらしい神のメッセージに案内して下さい。我々は神様の戒めをじゅうぶん守れると前提しています。これは一言で言うと、戒めばかり気にしないで、愛し合うことにもっと力を注ぐようにすすめているのです。互いに愛すれば、神様の戒めと律法は自然に守られると言うメッセージです。

愛するみなさん！もう一度十戒を思い出して振り返って見てください。十戒は二つの石の板(いた)に書かれたと申しました。一つ目の石に書かれた第一から第四までの戒めで神様との関係において我々が守るべき戒めでした。そこで、愛を入れて見て下さい。

我らが本当に神様を心から愛しているなら、ほかの神々を考えるでしょうか。本当に神様を愛しているなら偶像をつくって拝み、愛する神様の御名をみだりにとなえるでしょうか。神様を心から愛し、たたえることを願っているなら、神様への礼拝

を捧げる日をどうして後回しにすることが出来るでしょうか。不思議なのは、神様を心から愛すれば、神のすべての戒めは自然に知らないうちに守られるようになります。

二つ目の石に書かれたのは第五から第十までの人との関係の中で守るべき戒めの内容でした。これらの戒めも我々が家族を愛し、隣人を自分の愛するなら、守れない戒めはありません。親を真心で愛しているなら、その存在だけでも感謝し敬うはずでしょう。隣人を愛しているのにどうやって姦淫し、人を殺し、隣の人のものを盗めるでしょうか。

パウロは、ローマ人への手紙13章8-10節で、神のすべての律法を守れる秘訣を明らかに教えて下っています。

9節に「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない(むさぼるな)」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。」ということばに要約(ようやく)されているからです。」とまとめて下さっています。

そして、8節では「他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。(3版:律法を完全に守っているのです。)」10節でも「愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。(3版愛は律法を全うします。)」と言われました。

隣人愛は決して神様の愛と関係ないことではありません。我々が隣人を愛すべき一番の理由は神様が彼らを愛しておられるからなのです。そういうわけでAD400年ごろ、ローマ帝国時代のキリスト教の偉大な神学者だったアウグスティヌスはちょっと変に聞こえるかも知れませんが、このような意味深い言葉を残しました。

“神様を精一杯愛しなさい。そしてその心を持って自分が好きなことを自由にしなさい。”

愛する信仰の家族のみなさん! 結局は愛です。愛に焦点を合わせて生きれば神様の戒めすべてを自然に守られていくことを忘れないで下さい。それで十分です。

イエス様も、神の律法をまとめ、愛する心と生き方が神の律法のすべてであり、守り切れる秘訣であることを確かめて下さいました。

マタイの福音書22章37-40節「37イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。38それが、重要な第一の戒めです。39あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。40この二つの戒めに律法と預言者全体がかかっているのです。」

<④真のクリスチャン(キリスト者):神に愛され、神を愛し、その神の愛を分かち合いながら生きる存在>

そしたら、クリスチャンとして愛しながら生きることはいったいどうやって生きることを意味しますか。

ローマ人への手紙13章14節に大切な御言葉が書かれています。

「主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。」

イエスキリストという服を着ることはどんな意味でしょうか。「まごにも衣装(いしょう)」という言葉があります。きれいな服を着ると、その服に相応しくきれいに行動したくなります。敬虔な服を着ると敬虔な行動を取ります。セクシーな服を着るとセクシーに行動をしたくなります。どうして学生に制服を着せ、軍人に軍服(ぐんぷく)を着せますか。軍人としてのアイデンティティと言動をいつも忘れず堅持することを望み期待しているからではないでしょうか。(表が決して大切ではないですが、先の意味として、教会に礼拝に参加される時も、切る服も前もって準備して切ることもある意味で必要かも知れません。

迫害が激しかったイギリスから信仰の自由を守る為、アメリカの新大陸に着き、今日世界で一番強い国となっているアメリカを建てた清教徒クリスチャンたちはアメリカに着いた時に、一番最初に建てたのは、教会堂でした。その次自分たちの家と学校を建てるほど、神中心、聖書中心、教会中心とした信仰を握っていた素晴らしい日々人でした。彼らには、いくら貧しくしても、主日朝、教会で神に礼拝を捧げる為、必ず区別した一着の服を持っていたようです。高くて派手やかな服より、主日礼拝の為に、前もっていつも区別し、きれいに備えた服を来て礼拝に参加されました。その服を「Sunday Best」と言われました。主の日心から神様を愛し、神の臨在の中御前に出て礼拝する為、着る服さえも前もって準備し、区別して備

えるほど、神に礼拝を捧げる事にどんな心構えと信仰を持って毎週の礼拝を捧げていたのかが伝わって来ます。きっと礼拝を通して、どれほど恵まれ、祝福されたでしょうか。)

愛するCPC信仰の家族のみなさん！ガラテヤ人への手紙3章27節で、「**キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。**」つまり、イエス様という服を着るなら、私たちの生き方、行いはイエス様のように生きようとする事が出来るそうなるという御言葉です。それは、チャルズ・シェルドン(Charles Sheldon)という人が提案したように日々こう生きると思います。“今イエス様ならどうされたのか”、“今イエス様ならどう答えたのか”、“いまこの状況、この瞬間なら、イエス様はどうされたのか”という質問を常に自分に問いかけ、いつも主の御心を探り行う生き方のことです。イエス様を信じる者は自分の過去の古い衣を脱ぎ捨て、キリストにあって新しい脱げないキリストとのいう衣、イエスの服を着て生きる者です。ところが、問題は、われわれが時々、この服を脱ごうとしていることです。教会に来るときだけ、この服をちゃんと身に着けようと思いますが、教会から出てからは、家庭においても、職場においても、日常生活においてもは、このイエスの服を着替えて、別の自分がほしがる服を着て自分勝手に生きようとする傾向があります。まるで、実際服のように、いくつかの服をこっそり用意しておいて、教会ではイエスの服を着て、他のところでは別人のように自分の姿の服を何度も着替えている時はありませんか。

このイエス様の服をちゃんと着て生きる姿はどうなるでしょうか。コロサイ人への手紙3章12節を読んでみましょう。

「ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着(き)なさい。」つづけて使徒パウロは14節で「これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯(おび)として完全です。」と言われました。あわれみの服を、慈愛の服を、謙遜と柔和の服を、寛容の服を身に着ている姿がクリスチャンの姿と状態です。そして、何よりも全ての上に愛の服を着けるようにパウロは我らに促し勧めています。

隣人愛の始まりはわずか、ちいさな一ことばから、温かい配慮からも始まるべきです。周りのお年寄りの方々、子供たち、障害を持っている方は、助けが必要な方々など全ての日々に自分のことかのように、他人にもキリストの愛をもって語り、配慮するささやかな愛の仕えと努力、そのような愛の行いこそが、神様の律法が全うされるようになることだと聖書は我らに教えて下さっています。

コロナ時代、自分の事じゃないことに誰も顧みてくれない、声をかけてくれない、みんなコロナ孤独と無関心、寂しさの中で生かされている今の時こそ、キリストの衣を切っている我々は、さらに、キリストの愛を分かち合い、実践するべき時ではありませんか。神に愛されて、日々神の御言葉によって恵まれて心が満たされている我らがすべての上に、神の愛を持って人を愛することこそ、神様の戒めを全うされる道であり、さらに約束されたあふれるばかりの神の祝福を実際味わい頂ける秘訣であることを常に覚えましょう。

始まって9月中にも是非すべての上に愛を加えさせ、分かち合いながら、さらに神に祝福され、満ち足りる心と感謝があふれる幸いな人生と幸いな我らの家庭、幸いな我らの牧場とクリスチャンプレイズチャーチとなりますように救い主なるイエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!

